

最 終 試 験 の 結 果 の 要 旨

神奈川歯科大学大学院歯学研究科 口腔科学講座 田 中 道 雄 に

対する最終試験は、主査 青 山 典 生 准教授、副査 青 木 一 孝 教授、

副査 小 牧 基 浩 准教授 により、論文内容ならびに関連事項につき口頭試問を

もって行われた。

その結果、合格と認めた。

主 査 青 山 典 生 准教授

副 査 青 木 一 孝 教授

副 査 小 牧 基 浩 准教授

論 文 審 査 要 旨

Association of urinary albumin excretion with
periodontal parameters in patients with type 2
diabetes mellitus: a cross-sectional study

神奈川歯科大学大学院歯学研究科

口腔科学講座 田 中 道 雄

(指 導： 山本 龍生 教授)

主 査 青山 典生 准教授

副 査 青木 一孝 教授

副 査 小牧 基浩 准教授

論文審査要旨

学位申請論文である「Association of urinary albumin excretion with periodontal parameters in patients with type 2 diabetes mellitus: a cross-sectional study」は、横断研究のデザインにより2型糖尿病患者における尿中アルブミン値と歯周病の関連について検討した論文である。

近年、糖尿病と歯周病は相互の関連のある疾患として、双方に対する協調的な管理が必要と理解されている。尿中アルブミンは糖尿病合併症である腎症の早期診断指標であり、糖尿病の合併症の進行管理に重要な意義を持つ指標である。本論文は多くの患者を対象に多施設の医療機関において尿中アルブミンと歯周炎重症度の関連を検討する目的で行われた横断研究である。今後の歯科臨床に貢献することが期待でき、学術的に意義のある研究目的を有することが高く評価できる。

研究方法の概略は以下の通りである。全国臨床糖尿病医会に所属する糖尿病専門医が勤務する25施設において、2014年から2018年に2型糖尿病の治療のために通院歴のある有歯顎の患者2,302名を被験者とした。各種医科指標や歯周病指標のデータを採取し、これらとアルブミン値との相関を調べた。解析は全患者、および正常アルブミン尿の患者に対して行った。本研究の実施にあたって、自由が丘医科クリニックおよび神奈川歯科大学における倫理審査委員会での承認を得ており、すべての被験者から書面でのインフォームドコンセントを取得している。これらの研究方法は妥当なものであり、また倫理上も問題ない。設定した研究テーマに対する研究方法の組み立ては論理的であり、適切な解析手法により実験が行われている。

結果として、全患者においては尿中アルブミン値と平均歯周ポケット深さの間に統計学的有意な相関を認めた。一方、正常アルブミン尿の患者に限定して行った関連解析では、尿中アルブミン値と平均歯周ポケット深さの間には統計学的な相関を認めなかった。全患者を対象とした重回帰分析から、平均歯周ポケット深さ、4 mm以上の歯周ポケット割合、動揺歯の割合、歯周炎重症度について尿中アルブミン値との有意な関連を認めた。以上の結果は適切な方法で導き出され、明確なものであると評価した。2型糖尿病患者において腎症マーカーである尿中アルブミン値と歯周炎との相関が認められたことから、これらの検査が詳細な合併症の病態把握に有用であることが示唆され、今後のさらなる発展性も期待された。

本審査委員会は、論文内容および関連事項に関して、口頭試問を行った。その結果、十分な回答が得られた。本研究で提示された医科・歯科検査による新しい知見は、今後の医科歯科連携への貢献が期待でき、医療の発展につながるとの結論に至った。そこで、本審査委員会は申請者の博士論文が博士（歯学）の学位に十分に値するものと認めた。